

TDAデザインフォーラム 喜多俊之氏 基調講演 「デザインちょっと未来へ・・・」



喜多俊之氏



会場風景



懇親会会場風景

5月27日、通常総会后、プロダクトデザイナー喜多俊之氏の基調講演が行われた。喜多氏は、シャープの液晶テレビ『AQUOS』のデザインでも知られる第一線で活躍されているデザイナーである。イタリア・ドイツ・日本のメーカーから家具・家電・家庭用品など多くのヒット商品を生んでいらっしゃる。現在は、大阪の北浜とミラノを主な拠点として活動されている。

今回の講演では、スライドを交えた喜多氏の最近の仕事を通して、世界のデザインの動向を話して下さった。現在のデザイン立国たるイタリアは、'60年代の『人をもてなせる家作り』という日常のくらしの改革によって、人々の心が豊かになった所以にあるという話しは、とても興味深く印象に残った。日本ではどうだろうか？ 日常にファミリーパーティーを催す家庭は、まだほんの一部。突然人が訪ねて来たら、大慌てという家も少なくない。日本は住宅事情や人々の住まうことへの意識から変わっていかなければいけないのかな？ と感じた。しかしながら、「日本にはすばらしい伝統と熟練された地場産業がある」ということも強調された。そして、これらを世界のマーケットに押し出す総合プロデューサーの育成が急務であることも力説された。今、日本の『デザイン』も『意匠』だけではなく、もっと総合的なプロデュース力を持つべきだと痛感させられた。また、中国や韓国が政府ぐるみでデザインに力を入れている今日、日本はどのように進んでいくべきなのか？ 喜多氏がそのキーワードとしてあげられたのは、『ハイテク&ハイセンス』であった。長く世界的な視野で活躍されている喜多氏のお話は、楽しい関西弁ながらも、重みと説得力に溢れていた。

